保護者の皆様

青陽須磨支援学校

校長室だより

令和７年２月３日発行

★待ち遠しい春に思う　人のぬくもり★

大寒が過ぎたとはいえ、まだまだ寒さが身に応えます。昨日は節分でした。節分とは本来、四季の移り変わる節目のことをいい、暦では立春・立夏・立秋・立冬の前日のことを指します。「みんなが健やかで幸せに過ごせますように」との願いを込め、「鬼は外、福は内」と言いながら豆まきをしたり、恵方巻を食べたりしたことでしょう。本日２月３日は立春。暦の上では春の始まりであり、１年の始まりとされる日です。保護者の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

寒中にあって春が待ち遠しく感じられるとき、私は次の２つの歌（詩）を思い出します。

１．「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ

この歌の出典は、1987 年に発行された俵万智さんの第一歌集『サラダ記念日』です。こちらの何気ない問いかけに対して、こだまのように同じ思いを返してくれる相手がいることの有難さが伝わってきます。寒さも分かち合えば、ほんの一瞬でも心はぬくもります。しんどい時や辛い時も、その苦しみを分かち合える人がいればどんなにか救われることでしょう。この１年を同じ学び舎で過ごしたお子様たち。仲間や先生たちとの絆がさらに深まることを願っています。

２．上の雪　さむかろな。つめたい月がさしていて。下の雪　重かろな。何百人ものせていて。中の雪　さみしかろな。空も地面（じべた）もみえないで。

大正時代の詩人、金子みすゞの「積もった雪」という詩です。上の雪には「さむかろな」、下の雪は「重かろな」とささやいてその労苦をいたわっています。この詩の妙は、中の雪に「さみしかろな」と話しかけていることです。上の雪や下の雪のつらさには気づく人も多いでしょう。しかし、中の雪のさみしさに気づける人はいったいどのくらいいるでしょうか。中の雪は孤独です。みすゞは、中の雪にも心を配り温かな言葉をかけています。人として大切なメッセージが込められており、私は心が揺り動かされてしまいます。

2/25（火）・26（水）・28（金）の３日間は 13:40 下校で個別懇談会があります。今年度ご家庭や学校で努力し頑張ったことをほめ合い、来年度も継続して取り組むことを共有していただければ幸いです。今後ともお子様の成長のための「協同支援」をよろしくお願いいたします。

今春は例年以上に花粉の飛散量が多いそうです。花粉症の方は予防も含め、手当てに余念がないことと思います。鼻づまりに関する生理現象として「交代性鼻閉」と呼ばれるものがあるそうです。人間の鼻は一方の空気の通り道を休ませることで、呼吸によるエネルギー消費を節約したり、嗅覚を鋭敏に保ったりしているとのこと。人体は本当に繊細にできているのですね。　文責：寺沢 光明